

1 a 健康常者
b 暴力
c 過程

2 A うぬぼれ
B 情け
3 己
4 I 自分な II 自立
(完答)

5 (記述題) 6 赤ん坊
7 I イ II i 安心の追

II ii 善意の押
8 (記述題)
9 コン
10 ウ

2 1 a 段
b 由来
c 見当

2 I 見守られ II いのち
3 温か
(完答)

4 ア↓イ↓エ↓ウ
(完答)

5 I A II 3/3 III C 身 D 世 IV 高 6 (記述題) 7 エ

8 どちら
9 I 幸せ II 後悔
10 子ども
(完答)

1 5 周りにいる人が、先回りして周囲の様子を言葉でことこまかに教えてくれる状態。
(同意可)

8 相手は自分のコントロール
下置かれ、想定外の行動
は取らない
(同意可)

2 6 十八歳になる前にきれいな姿のまま
十八歳になる前にきれいな姿のまま
で死ぬのうたとしたとき。
(同意可)

「配点」	
11	11
5	1
8	2
3	3
その他	
22	22
6	1
5	5
各4点×14	各2点×13
各6点×3	各3点×3
各8点×2	各18点
各56点	各26点

1

aの「健常者」は「常」の一面目をまっすぐ書こう。漢字の書き取りでは採点者に誤解をされないように特に一面ずついていぬに書くことを心がけたい。bの「暴力」は「暴」の下の部分を「水」のようにしてはいけない。cの「過程」は「家庭」や「課程」などの同音異義語と混同しないように気をつけよう。

2 A:「うぬぼれ」は自尊心が強すぎる様子を表す。B:「情けは人のためならず」は「人にかけた情けは、あとによい報いとなって自分のところに返ってくる」という意味である。よく意味を逆に取り違えらるので気をつけよう。

3 「利□」とあることから「他」の対義である自分を表す漢字がはいると見当がついただろう。

4 ここでいう「壁」が目的の達成をさまたげるネガティブなものであることをまずおさえよう。直後からの「西島玲那さん」と「丹野智文さん」の例がこの壁の話の具体例であると当たりをつけて、その例の中、または例のあとでもう一度まとめている部分から問いに合うことばがないか探していこう。

5 線部③のあとに「まるでバスマイドのように」とあることから直後の部分が「はとバスマア」がたとえているものの説明になっっていることがわかるだろう。ただし「周りにいる晴眼者が、言葉でことまかに教えてくれます」とまとめただけでは、何を教えてくれるのがわからないのでさらに説明をくわしくしていこう。

6 線部④よりあとの部分には目が見えない人や、認知症の人など障害をもった人は出てこない。——線部④からは「自分と違う世界を生きている人に対して、その力を信じ、任せること」と続いているので、「その力を信じ、任せる」相手を探そう。

7 「『不確実性』に開かれ」や「『不確実性』に閉じて」のようことばが難しかったりあいまいだったりして頭の中に入っていないことがあるかもしれないが、合格点を求められているテストで出てくる以上は何らかの形で処理ができるか、問題を解く上では処理する必要のない部分であるか、自分の力が足りていないかのいずれかである。どの場合にしても本文中のことばと結びつけて、何となくでも意味をおさえていくべきである。この問いではI・IIと段階をつけたように、まずはIで——線部⑤が「信頼」と「安心」の説明であることをおさえ、直後の具体的な説明の部分からどちらが「信頼」でどちらが「安心」かをはっきりさせる。IIでは「閉じている」つまり「安心」を求める考えの問題点が問われているので「信頼」と「安心」を対比させている直後の説明にある「問題は、安心の追求には……」のところがヒントになると気づくだろう。しかし、「追求には終わりが無い」だけでは問題とされるようなネガティブな面がはつきりしないので、追求を続ける中でどのような不利益があるのかを探して読んでいくと、「ついつい自分の価値観を押しつけてしまい……」に行き当たる。この内容を指定の字数で表しているところを探せばよい。

8 この文章で語られている「安心」については「山岸俊男」の引用のあとにまとめられている。

9 「自分の行為の結果は⑦できない」と考える「利他の大原則」はそのあとで「不確実性を意識していない利他」と対比されていた。「社会的な不確実性が存在していないと感じる」とときには行為の結果をどのようにできると書いてあったか探せばよい。

10 ウが本文の後半に書かれていた「見返りを求める心」を否定する内容と合っている。他の選択肢はもってもらしいが、本文には書かれていない。

2

1 aの「段」は「時」という意味で使われている。bの「由来」は「由」が「田」や「申」とならないように書こう。cの「見当」は「検討」といった同音異義語と取り違えないように気をつけよう。

2 「父」や「もみじ」をその死後にどう思っているかは本文の最後に書かれていた。

3 物語や随筆で中心となる人やものを言いかえたことばは必ず通読の際に何のことかははっきりさせておこう。

4 A:直後の対比から「父」は「もみじ」よりも先に、本文の最後の部分で春に亡くなったことがわかる。I:「もみじ」が死ぬ直前の節分である。ウ:「私」がこの文章を書いている時である。E:「もみじ」が亡くなったあとのことをウの時から振り返っている。

5 I:「差しあげ」は謙譲語、「おつしやつ(た)」と「下さつ(た)」は尊敬語である。II:ひな祭りで有名な節句である。III:他の強調に使う慣用表現も覚えていこう。IV:「たかをくくる」の「たか」を「高」と書く。「取れ高」などに使うときの「高」である。

6 「永遠のセブンティーン」とは十八歳にならないということなので、十七歳で死ぬということである。このときの「もみじ」について、院長先生とのやり取りの中で「私」がどうとらえているか書かれていた。

7 「彼女の不在」、つまり「もみじ」がないことが「乗っている」、つまり感じられるということである。

8 直後に「なるほど……でも……」の形で「私」の考えが書かれていた。そこをヒントにできるだろう。

9 線部⑥のあとから「そう、生きものを飼うことは、あらかじめ哀しい」とまとめられたうえで、どのように哀しいのかがくわしく書かれていた。そこから問いに合うように答えを読み取っていこう。

10 「それこそ……のように愛しても」とあるので、「ペット」や「犬や猫」では「それこそ」の意味が生きてこない。ペットそのものではないものにたとえているのである。直前の「永遠の」もヒントになるだろう。